

昭和六十二年現代宗教研究所事業報告

1、第二十回中央教化研究會議

期 日 昭和六十二年九月九日（水）・十日（木）

會 場 池上本門寺・朗峰會館

宿 舎 品川ホテルパシフィック

開催趣旨

①記念すべき第二十回中央教化研究會議を迎え、會

議のより一層の充実をはかり、教師の連帯を高め、

日蓮一門づくりを推進する原動力とならう。

②お題目総弘通運動の徹底とその浸透をめざし、開

宗七五〇年に向けての宗徒の進むべき道について

語り、その方策を考えよう。

③現代に対応する信行活動と、信行会づくりの励み、

二十一世紀をリードする宗門体制を確立しよう。

④宗教と社会、祖願と現代について考え、浄仏国土

顕現の具現化をはからう。

⑤中央教研と地方教研の今後のあり方を検討し、中

央教化センターと地方教化センターづくりを推進

しよう。

統一テーマ

——現代に生きる宗門づくりとお題目総弘通運動を

語らう——

會議形式

(1)全体會議

——記念講演——「現代における布教とは」

長谷川正徳（前現代宗教研究所所長・顧問）

(2)分科会まとめシンポジウム

分科会及びテーマ

第一分科会 教学部会

お題目総弘通運動のための教学の現代化とその徹

底について語りあおう。

第二分科会 寺檀部会

お題目総弘通運動に対応する寺院と檀信徒のあり

方及び未信徒教化について語りあおう。(とくに信行会について)

第三分科会 法器養成部会

お題目総弘通運動を担う未来の法器養成について語りあおう。(信行道場・加行所・勤学院)

第四分科会 世代別教化部会

お題目総弘通運動による宗徒の若返り策と世代別教化の活力度について語りあおう。(青少年修養道場・林間学校)

第五分科会 教化伝道部会

お題目総弘通運動を推進する教化伝道の方法について語りあおう。(教箋・ポスター・テレフォン説教・視聴覚伝道・掲示板)

第六分科会 社会問題部会

お題目総弘通運動と社会諸問題との接点をさぐり、運動の展開方法を語りあおう。(医療・福祉・過疎

過密問題・立正平和運動)

第七分科会 教化組織部会

お題目総弘通運動の全国的、地域的連帯と地域の

活性化について語りあおう。(人材バンク・ネットワークづくり・中央教化センター・地方教化センター)

討議方式

- ①各分科とも最初に統一テーマについて討議する。
- ②各分科会のテーマにもとづき討議する。
- ③「お題目総弘通運動第一期六カ年計画」を基礎に部会方針としてまとめる。

日程

第一日目 九月九日(水)

受 付 午前九時～九時三十分(朗峰会館)

開会式 午前九時三十分～十時(本殿)

記念講演 午前十時～十一時(本殿)

分科会 午前十一時～十二時三十分(指定会場)

昼 食 午後十二時三十分～一時(指定会場)

分科会 午前一時～五時(指定会場)

懇親会 午後五時十五分～六時四十五分(朗峰

会館)

移動 午後七時(ホテルへバス移動)

第二日目 九月十日(木)

朝 食 午前七時三十分

移動 午前八時三十分(朗峰会館へバス)

移動)

全体会議 午前九時〜十二時パネルディス

カッション(朗峰会館)

教区別懇談会 午後十二時〜一時三十分(昼食)

(指定会場)

誓願唱題行 午後一時三十分〜二時(本殿)

閉会式 午後二時〜二時三十分(本殿)

参加者 宗務所長よりの推挙委嘱された運営委員

(管区三名)

参加費 会議費・宿泊費宗務院負担(担し交通費

は自費負担)

2、教区・地域教化研究会儀開催

十教区にて開催した。開催日時・テーマは次の通りである。

(イ) 第十一回中四国教化研究会議

六月十二・十三日 広島市せとうち苑にて開催

テーマ「お題目総弘通と信行会活動の新しい展開

をめざして」

(ロ) 第九回九州教区教化研究会議

六月二十四・二十五日 別府市花菱ホテルにて開

催

テーマ「信行会活動の活性化」

(ハ) 第十一回北海道教区教化研究会議

八月二十五日 札幌市経王寺にて開催

テーマ「お題目の輪を拓げるために今何が一番必

要かを考えあおう」

(ニ) 第十七回近畿教区教化研究会議

九月四日 和歌山市蓮心寺にて開催

テーマ「お題目総弘通運動を展開しよう」

(ホ) 第六回東北教区教化研究会議

十月二・三日 三沢市古牧温泉第二グラウンドホテ

ルにて開催

テーマ「現代に生きる宗門づくりとお題目総弘通

運動を語ろう」

(ヘ) 第十三回京浜教区教化研究会議

十一月九日 藤沢市妙善寺藤沢会館にて開催

テーマ「信行会の活性化と進めかた」

(ト) 第十二回静岡県教化研究会議

十一月十九日 浜松市妙思寺にて開催

テーマ「現代に求められる教師像について」

(チ) 第四回北陸教区教化研究会議

十一月二十五日 富山市高志会館にて開催

テーマ「お題目総弘通の化導の具体的方策を求めて」

て」

(リ) 第十一回中部教区教化研究会議

昭和六十三年三月二日 飯田市飯田市文化会館に

て開催

テーマ「今問われる宗教のあり方、その役割と使

命」

(ヌ) 第五回千葉県教化研究会議

昭和六十三年三月十四日 天津小湊町ホテル三

月にて開催

テーマ「お題目総弘通運動に対応する寺院の檀信

徒・未信徒教化のあり方」

(ル) 第三回北関東教化研究会議

昭和六十三年三月三十日 埼玉県管内にて開催

3、研究・調査活動

①新宗教・寺院調査・お題目総弘通研究各プロジェクト

トにおいて各課題のもとに調査・研究を進めた。

(イ) 新宗教プロジェクト(片野博義・山口裕光・植

田観樹・西片元証・白部哲応各研究員)

主だった新宗教教団を抽出し、各教団の沿革・

教義・組織・布教体系・活動等について資料を収

集し、担当分担任てまとめに入った。本年度は大

本(神道系)と妙道会(法華系)本部を実際に訪

れ、調査して現状の把握と問題の所在を探り、ま

とめ報告を行なった。

(ロ) 寺院調査プロジェクト(渡部公容・蓮見高純・

本良信典・鈴木浄元・望月兼雄・常岡裕道各研究

員)

小川英爾現宗研嘱託の協力を得て、現宗研が進

めてきた過疎地域寺院調査を総括し、調査寺院を

地域別にまとめ、各々の寺院の姿と問題点をわか

りやすく、しかも啓蒙的に白書として編集した。

報告書は五月の発行をめざして作業を進めている。

(イ) お題目総弘通運動研究プロジェクト(古河良

皓・大島啓禎・嶋田堯嗣・伊藤立教各研究員)

信行会活動を推進すべく、信行会の実際をいか

に把握し他に提供すべきか、また運動の本年度の
テーマについて討議を重ねた。

②研究講座・教化学研究集会を開催した。

第九回教化学研究集会を大阪市雲雷寺にて開いた。

研究講座

「お題目総弘通運動の具体化をめざして」

長谷川正徳(前現宗研究所長)

研究発表

日本の社会教育はこれよりよいか

……………青木泰秀(和歌山県)

修法師の行証……………山口徹修(大阪府)

宗門の法器育成を考える……………新聞智照(兵庫県)

③研究セミナー・研究懇話会・座談会の開催

(イ) 五月二十九日、新宗教調査研究の一環として、

新宗教セミナーを宗務院にて開催した。今回は、

法華系新宗教の分野では「妙智会教団」理事の小

林永司氏から、教団と氏との関わりを中心とした

高話載いた。また、法華系以外からは、「天理教」

本吾孀分教会の八島英雄氏から、開祖中山みきの

教義と、その変遷について講演を伺った。

(ロ) 十一月五日、日蓮聖人御遺文研究セミナーを宗

務院にて開いた。法華会理事長・中央大学教授春

日屋伸昌氏から、「法華会と在家信仰」と題して、

氏との関わりから法華会成立の経緯と、在家主

義・在家信仰について、講演をいただいた。

(ハ) 十二月一日、現代宗教研究セミナーを宗務院に

て開いた。桃山学院大学沖浦和光教授を講師に、

「アジアの聖と賤」(カースト制の浄穢観念や律令制

の貴賤観念を体系的に分析しながら、日本の被差別民

衆史の本質を衝く)を研修し、日蓮聖人の「旃陀羅

が子」について、先生の話を拝聴した。

(ニ) 十二月二日、「一步外から見た日蓮宗」と題して、

日頃日蓮聖人の宗教に関心を持つ相沢宏明・梅津

礼司・山口晃一各氏に参会頂き、日蓮宗のあるべき姿勢についての庭談会を開いた。

(ホ) 昭和六十三年一月二十一日、日蓮宗を中心に教団の現状と未来のあり方につき、研究の交流を図るため、現宗研はじめ、日蓮宗内外の有志に呼びかけて、テーマ「教団論——日蓮宗の現状と未来を考える」のもと「教団研究懇談会」を、神田の学士会館にて開催した。

(ハ) 二月十八日、過疎寺院調査懇談会を開いた。

④ 研究例会

年来のテーマ「現代社会の諸問題と日蓮宗教化」をまとめるに当って、各テーマの問題点を研究員間で討議し、本年十月をメドにまとめ報告をする旨確認し合った。

⑤ 総合企画部の委嘱により、「昭和六十三年度宗勢調査」の調査項目原案をまとめた。

⑥ 教団史研究資料として、各種資料より「昭和六十年年度日蓮宗年表」を作成し、配布した。

⑦ 教化資料として、現宗研顧問長谷川正徳述「いま、

なぜお題目が必要か」を作成、配布した。

⑧ 伝道・教化・研究に必要な図書を集集し、新宗教関係資料を集集し保管した。

4、その他の活動

① 浄土宗布教研究所主催「各宗教化関係研究機関連絡協議会」(昭和六十三年二月二十六日)に参加し、「各宗団における教化活動の問題点と将来の展望」について意見交換を行ない、関係資料を交換して研究交流を深めた。

② 中央教研の決議に沿って、日蓮宗教化センター設置を推進し、地域教化センターと連絡を密にし、互いの機能の充実を進めた。

③ お題目総弘通運動推進のテキスト作成に協力した。

④ 「現代宗教研究」第二十二号を編集し、全寺院に配布した。

⑤ 顧問会議・嘱託会議・研究員会議を開き、研究の在り方などを討議し、内容の充実を努めた。

⑥ 研究所職員が教区・管内主催各種研究会議・研修会などに出張した。